

令和 6 年 7 月 23 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第 4 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
7月	1	27.7	25.5	31.2	29.2	25.6	22.7	141	96	12.9	16.7
	2	29.8	26.3	33.4	30.2	27.6	23.3	1	87	26.6	20.8
	3	25.1	27.0	28.0	31.2	23.0	23.8	218	64	6.4	24.9
	4	28.6	27.6	32.8	32.1	25.6	24.3	11	44	22.4	28.8

【7月 17～22 日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 2.3℃高かった。

降 水 量：平年比 2%と少なかった。ただし、アメダス鳥栖地点では 21 日に 53mm/日（最大 50.5mm/時）の降雨が観測されており、地域によって降雨の状況が異なる。

日照時間：平年比 142%と長かった。

2. 管内の生育概況

- ・「夢しずく」では分けつの発生が鈍化し、茎数が少ないまま幼穂形成期を迎えている。
- ・中晩生品種では分けつの発生が旺盛になり、有効茎数が確保された圃場が多い。
- ・葉色は濃い傾向である。

3. 情報田生育調査結果（7月23日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	79.4	50.1	42.8
平年値（平年比）	77.4(103)	50.6(99)	45.6(94)
茎数（本/㎡）	254	364	604
平年値（平年比）	332(76)	408(89)	616(98)
葉齢（L）	11.8	10.0	11.0
平年値（平年差）	11.2(+0.6)	10.3(-0.3)	10.8(+0.2)
葉色（SPAD値）	42.4	44.1	43.4
平年値（平年差）	40.8(+1.6)	41.0(+3.1)	40.2(+3.2)

概況

生育

草丈：「夢しずく」はやや高く、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は低い。

茎数：「夢しずく」「さがびより」は少なく、「ヒヨクモチ」はやや少ない。

葉齢から見た生育の早遅：

「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。「さがびより」はやや遅れている。

葉色（SPAD値）：「夢しずく」はやや高く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は高い

主幹の幼穂長：「夢しずく」約3mm

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

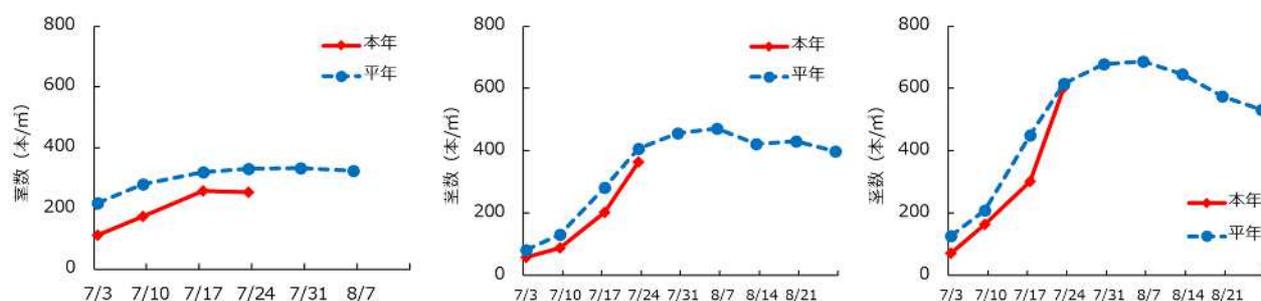


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

(参考) 農業試験研究センター米づくり情報4号 R6年7月23日(抜粋)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年	65.6	335	10.5	40.7	[気象] 7月16日~22日まで ◆平均気温…平年より1.8℃高い ◆日照時間…長い(平年比126%) ◆降水量…少ない(平年比20%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で 少なく、「ヒヨクモチ」でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い。 ◆葉色 「夢しずく」はやや濃い、「ヒノヒカリ」は 濃い、「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み。
		平年	59.4	410	10.4	39.1	
		平年比(差)	110	82	+0.1	+1.6	
	ヒノヒカリ	本年	60.2	480	10.8	43.7	
平年		53.7	560	10.5	41.1		
平年比(差)		112	86	+0.3	+2.6		
6月20日	さがびより	本年	57.2	418	10.3	41.6	
		平年	49.7	502	10.4	41.2	
		平年比(差)	115	83	-0.1	+0.4	
	ヒヨクモチ	本年	52.1	842	10.9	43.2	
平年		47.7	816	11.0	42.9		
平年比(差)		109	103	-0.1	+0.3		
留意点	○ 7月17日以降晴天が続き、日照時間が長くなったものの、草丈は各品種とも伸長(15cm程度)した。「夢しずく」で分げつの発生が鈍化した、「ヒヨクモチ」は二次分げつの発生が盛んで、平年並みの茎数が確保されている。 ○ 「夢しずく」の中干しは、茎数が少ない圃場が多いと思われるため、極端に強い中干しとはせず、幼穂形成期(農試平年7/28)までに中干しを終える。 ○ 有効茎が確保された「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は、速やかに中干しを実施する。						

4. 普通期水稻の今後の管理について (7月24日~)

(1) 水管理

① 「夢しずく」

- ・ 幼穂形成期を迎えた圃場は中干しを終え、湛水して穂肥を施用する。その後は間断灌水に移行する。

② 「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

- ・ 分げつ数確保のため、引き続き浅水管理、間断灌水を徹底する。
- ・ 1株当たり茎数20本以上が確保できた圃場から、中干しを実施する。
- ・ 中干しは土に軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。

※茎数が不足している圃場及び弱小分げつの多い圃場では、軽めの中干しを実施する。

中干しの効果

- ・ 無効分げつの発生を抑制する(過繁茂防止、生育量の適正化)
- ・ 土壌に酸素を供給する(根の健全化、有害ガスの除去)
- ・ 田面を固める(圃場管理、機械作業の効率化)

(2) 施肥

①「夢しずく」穂肥

- ・普通期（6月中旬移植）の「夢しずく」では、間もなく穂肥の時期を迎える。必ず「穂肥診断」（草丈、葉色、幼穂長を確認）を実施し、診断基準を参考に穂肥を施用する。

※本年は葉色の濃い圃場が多くみられるため、過剰な施肥にならないよう注意する。

表1. 夢しずくの穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1 mm	3	15 (山麓20)
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2 mm	3	15 (山麓20)
	3.5～3.8	38～39	〃	〃	1.5～2.0	10
	3.8以上	40以上	18日	2 mm	1.0以下	7
73～79cm	3.5以下	38以下	18～20日	2 mm	1.5～2.0	10
	3.5～3.8	38～39	〃	〃	1.0以下	7
	3.8以上	40以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂形成期（幼穂長1mm）を起点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

穂肥の留意事項

- ・早すぎる → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数過剰で登熟が悪くなる。
- ・遅すぎる → 籾数が少なく、減収し、タンパク値が高くなり食味が低下。
- ・多すぎる → 倒れやすく、籾数過剰で登熟が悪く、タンパク値が高く食味が低下。
- ・少なすぎる → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる。
- ・中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果（土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる）により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。

(3) 病虫害防除

①トビイロウンカ

- ・トラップ調査の結果等から、6月23～24日頃、7月1～2日頃の飛来に加え、7月10～11日頃に新たな飛来があったと考えられる。

②コブノメイガ

- ・トラップ調査の結果等から、6月24～27日頃の飛来に加え、7月12～15日頃に新たな飛来があったと考えられる。
- ・管内でも「夢しずく」等で発生圃場が散見される。

- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・県農業技術防除センターから7/19に情報提供された発生予測図は下図および添付資料参照。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター



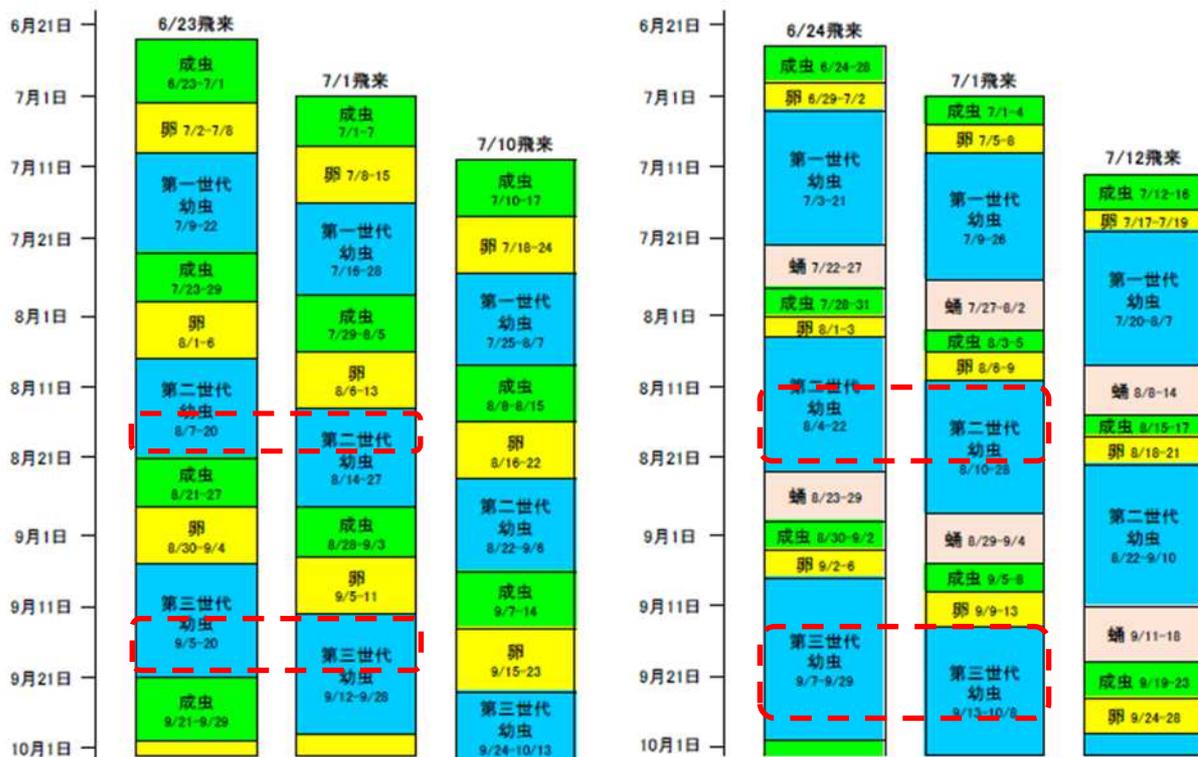


図 各世代の発生予測 (左：トビイロウンカ、右：コブノメイガ)
第2版 2024年7月19日公表

③ 紋枯れ病

- ・ 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生しやすくなるため注意する。
- ・ 病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。(液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安)

(3) 除草作業

- ・ 除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生がみられる。
- ・ このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

5. 大豆の今後の管理について

多くの圃場で7月17日以降に播種が開始され、7月20日頃から播種作業のピークとなっている。

これから播種する圃場では、天気予報や圃場条件に注意し、播種時期に応じた播種を行う。

7月上旬に播種された圃場では、本葉の展開期となっている。

(1) 今後の天候

- ・九州北部は7月22日に平年より3日遅く梅雨明けした（速報値）。
- ・九州北部地方の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量と日照時間はほぼ平年並みの予報である。

参考) 週間天気予報（佐賀県：7月23日17時発表）

明日 24日(水)	明後日 25日(木)	26日(金)	27日(土)	28日(日)	29日(月)	30日(火)
曇時々晴 	曇時々晴 	曇一時雨 	曇 	曇時々晴 	晴時々曇 	晴時々曇 
20/20/20/20	30	50	40	30	20	20

(2) 雑草防除

①播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）を散布する。その際、周囲の水稻等への飛散がないよう注意する。
- ・非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨でも効果が期待される。プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨でも効果が期待される。

②播種後処理

- ・播種直後に土壌処理剤を散布する。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

(3) 圃場準備

- ・今後は土壌の乾燥が進み、播種が遅れた場合は発芽不良や遅延が懸念される。
- ・トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、直ちに播種する。
- ・耕起後に降雨にあった場合は土壌が乾燥しにくく、晴天が続く場合は乾燥しやすくなるため、荒起こしはできるだけ播種当日に行い、播種耕起との間隔を空けないようにする。

(4) 播種作業

①種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒（クルーザーMAX、キヒゲン R2 フロアブルなど）を実施する。

②播種量・深度など

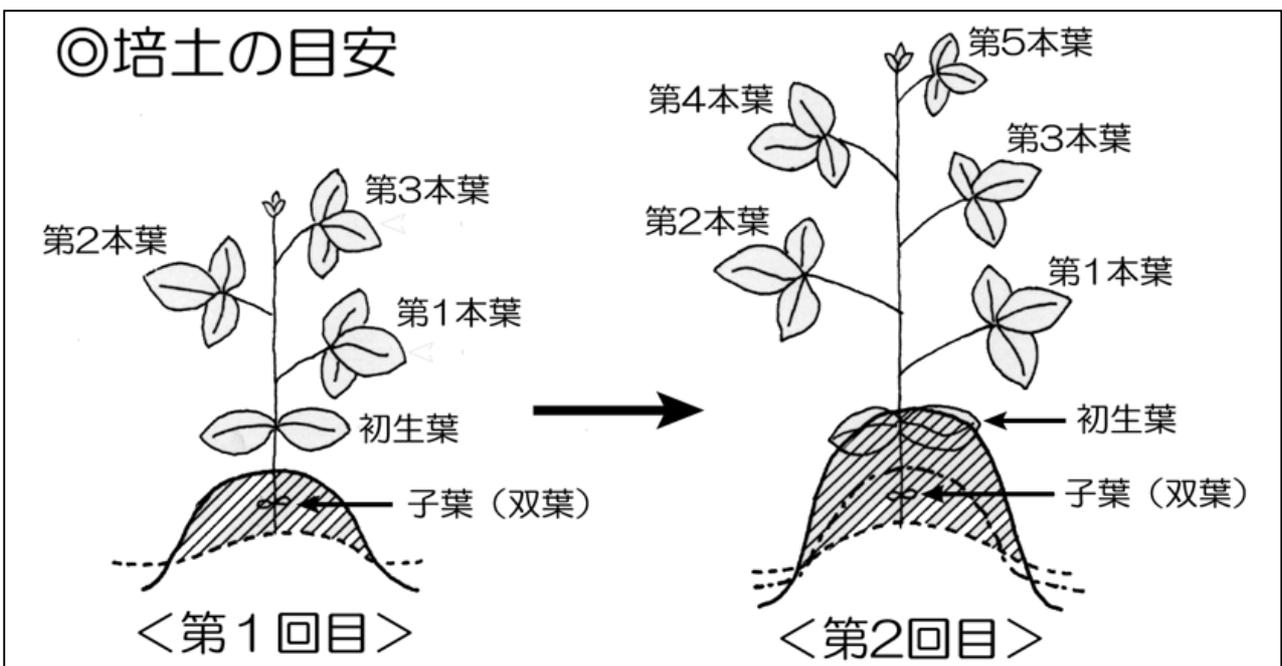
- 大豆の収量を確保するためには、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月21～31日	13本	75×20×2	4.0以上
8月～	18本	(2条)75×15×2	5.3
	20本	(3条)50×20×2	6.0

- 播種後に降雨が多い予報の場合、2cmの浅めにして播種後の鎮圧は行わない。
- 播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧を行う。
- 1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。
- 播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。

(5) 中耕・培土の実施

- 7月上旬播種の大豆の生育ステージは、本葉1～2葉期である。
- 本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
- 本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- 特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。



令和6年産 水稻生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀, データ更新日：7月22日)

三神農業振興センター

